白浜レスキューネットワーク通信 10～12 月号
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8
TEL&FAX0739-43-8981
http://srnw.or.jp
e-mail　yabiumi@gmail.com
理事長　藤藪庸一
郵便振替 00920－6－85589　口座名：白浜レスキューネットワーク
紀陽銀行白浜支店普通預金 589389　口座名：NPO特定非営利活動法人
白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

10 月 1 日～10 月 31 日

電話件数 120 件
保護件数 0 件
帰宅件数 2 件
共同生活者数 12 人
(男性 7 人、女性 3 人、中学 1 名、小学 1 名)

〇寮生活していた高校生と中学生が自宅に帰った。

11 月 1 日～11 月 30 日

電話件数 125 件
保護件数 1 件(男性 1 名)
帰宅件数 1 件(男性 1 件)
共同生活者数 12 人
(男性 7 人、女性 3 人、中学 1 名、小学 1 名)

〇11 日、70 代男性保護。自宅へ帰った。

12 月 1 日～12 月 31 日

電話件数 111 件
保護件数 3 件(男性 1 名、女性 2 名)
帰宅件数 3 件(男性 1 名、女性 2 名)
共同生活者数 12 人
(男性 7 人、女性 3 人、中学 1 名、小学 1 名)

〇1 日、男性を保護。帰宅。
〇4 日、女性を保護。2 日間滞在。帰宅
〇5 日、女性を保護。アスペルガー、自閉症、鬱で、幻覚もあるとのこと。2 週間滞在。帰宅。

生活自立支援活動

〇4 月に保護した女性は、父親との関係回復を図っている。
〇9 月にアパートへ移り自立した男性は、引き続き農業と保養所と礼拝に来てくれている。
〇4 月にアパートへ自立し、9 月に入ってから、調子が悪い男性は、11 月からずっと仕事を休んでいる。1 月 15 日に解雇となる解雇通知を 12 月 15 日に出した。
〇まちなかキッチンで働く 30 代男性は、返済を頑張っている。
〇まちなかキッチンで働く 20 代の男性は、むさしの社食での責任をもつように訓練を受けている。父親への返済を順調に行っている。
〇まちなかキッチンとコンビニをかけもちしている 20 代女性は、貯金がずいぶん貯まった。
〇紀南こころの医療センターに通院している 50 代男性は、部屋にひきこもり、食事だけ起きて来る状態を続けている。通院は続けている。現状維持という感じだ。
〇独り言を言う女性は、改善が見られない。
〇家族で共同生活に加わった 40 代男性とその子どもたち(中学 2 年男子、小学 2 年女子)は、共同生活の中でも、家族で過ごす時間と家族と言う意識を持つことを大切にできるように指導している。
〇1 月に保護した 60 代男性は、農業と保養所の仕事に頑張っている。
〇保護観察処分中の男性は、まちなかキッチンで働きながら、計画的に借金の返済を行っている。父親のところに一度帰った。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンター、御坊店、各店舗のご協力をいただいている。

行政からの依頼に応じて食材の提供を行った。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

二年生3名、一年生2名。13名の先生方にご協力を頂いて、月曜日から金曜日まで昼から２限の授業を行っている。英検に合格する生徒が出て来た。

・少年少女漂流隊

白浜第一小学校のクラブ活動に講師を派遣し防災をテーマにいろんな体験学習を行っている。

・コペルくん

夕方行なわれているコペルくんは、2名の子どもが参加している。

新たに、和歌山いのちの電話の相談員が、指導に加わってくださった。

・くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ

11月末、青少年センターから、白浜駅前のビルに移転した。

のこのこ広場を月二回のペースで開催。うち1回はのこのこ食堂として昼食を用意している。リトミックを取り入れている。

のこのこルーム(適応指導教室)を開設し、中学生が利用を開始した。

西牟婁郡内の保健センター主催の乳幼児健診へスタッフを派遣し、啓発に努めている。

田辺西牟婁の小中学校4校で、人権講演会に招かれ、講演させて頂いた。

すさみ町へも講演に行かせて頂いた。

・12月8日、チャリティーコンサートを開催

白浜バプテスト基督教会礼拝堂を会場に、チャリティーコンサートを開催した。ネットでも同時配信を行った。128800円の寄付金が集まった。

・募金を始めました。

江見太郎牧師が1979年に活動を始めてから、1700人超える人を保護し、社会復帰へと、支援してきた。

1999年に私が引き継いでからでも保護して一緒に生活してきた人の数は、1000人をこえた。

現在、共同生活の場、学生寮として使っている施設はどれも築50年を超え、雨漏れ、ヒビ割れ、傾きなどなど、建物自体の老朽化がすすんでいる。

その都度修繕を重ねてきたが、追いつかず、配管が古くて水圧に耐えられず破損するなどの修理の費用が嵩むようになり、騙し騙し使ってきたが、もう建て替えた方がいいのではないかとところまできてしまった。

そこで、改めて建て替えるならばと、今後のビジョンを加えて、新施設建設を祈り始めた。エジソンハウス構想は、私たちにとっては、夢物語ではなく、これまでの活動の延長線上にある実現可能な社会のセーフティーネットの仕組みだと思っている。

ぜひ、応援よろしくお願いします。

寄付ページ

https://syncable.biz/associate/shirahama-rescue